



さらなる飛躍を

参事 清藤 純一

平成11年4月に当センター所長として着任しましたが、健康が優れないため今回の定期異動で所長を退任することにいたしました。在任中は様々な事業に関しまして、皆様方から多くのご支援ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

この2年間は、21世紀への橋渡しの時期でしたが日本経済の不況の深刻化、経済構造改革の取り組み強化、中央省庁再編や国研の独立行政法人化、危機管理、環境汚染の広がりなど、次々に大きな問題が発生し、まさに激動の真っ只中であつたように思います。一方、県においては、総合基本計画が終わり、新たに「21世紀新かごしま総合計画」の第1期がこの4月からスタートする時期でもあります。センターも14年目に入り、充実した時期を迎えました。このような時期にあつて、センターの職員とともに数々の事業に取り組んで参りましたが、概ね業務を遂行できたのは産業界や大学関係の皆様方のおかげとと思います。

「強誘電体インテリジェント材料の研究開発」や「川辺仏壇の新設計開発・製造システムに関する研究」の産学官プロジェクト研究をはじめ、研究成果発表会では例年より数多くの研究テーマを発表し、県内企業に広く紹介しました。その研究成果として2年間で8件の特許取得、14件の特許出願（うち国際出願1件）を行い、積極的に研究開発や技術移転を図ってきました。平成12年度の提案公募型事業に3テーマ採択されたことはその成果の賜だと思えます。

そして、平成12年度即効型地域新生コンソーシアム（NEDO事業部）では「使用済み発泡スチロールの完全循環型再生技術及び処理装置の開発」が全国の多数の応募の中からこの3月に採択されたことは感無量の喜びでした。今後も果敢に産学官プロジェクト研究を推進し、大きな成果を

収めることを強く念じます。さらに、センターと鹿児島大学が共同開発した「電磁波誤動作の検出装置」が科学技術庁（現文部科学省）の注目発明にも選ばれたことも良い思い出の一つです。

今年11月には、国分市で第18回日韓国際セラミックスセミナーが開催されることになりました。これを契機に韓国のみならず、アジア諸国との技術交流もより深まり、新しい技術分野が創出されるのではないかと大変楽しみです。

また、センターの業務を県民の方々へ広く正しく知ってもらうために、広報活動にも力を入れました。年間20件ほど掲載・報道されましたが、地元紙の一面トップを飾ったり、テレビでも成果を積極的に取り上げていただき、主旨は果たせたように思います。

技術情報関連では、「技術相談110番」の開設、「KIT-enews」情報サービスの配信、鹿工技ニュースの刷新を行いました。業界の皆さんの評判も上々のようです。また、併設する知的所有権センターと企業や組合・団体へ出向き、特許や商標などの検索の講習会を実施し、大好評を得ています。本県産業界の新商品開発や新分野展開、そして起業家育成へ繋がるものと確信しています。

研究開発では、新規と終了テーマについて内部及び外部の研究開発推進会議委員による評価制度を設けました。基本的には自分たちで研究テーマの立ち上げ、結果の評価を厳しく行っていく姿勢が重要であると考えます。また、県内企業の技術的課題を調査し、その内容を研究テーマに反映させ、成果を技術移転することが肝要と考えます。

現在、体調の回復を目指して頑張っているところです。最後に、お世話になった鹿児島県産業界や大学関係者の皆様方のさらなる飛躍を祈念しまして、退任の挨拶といたします。